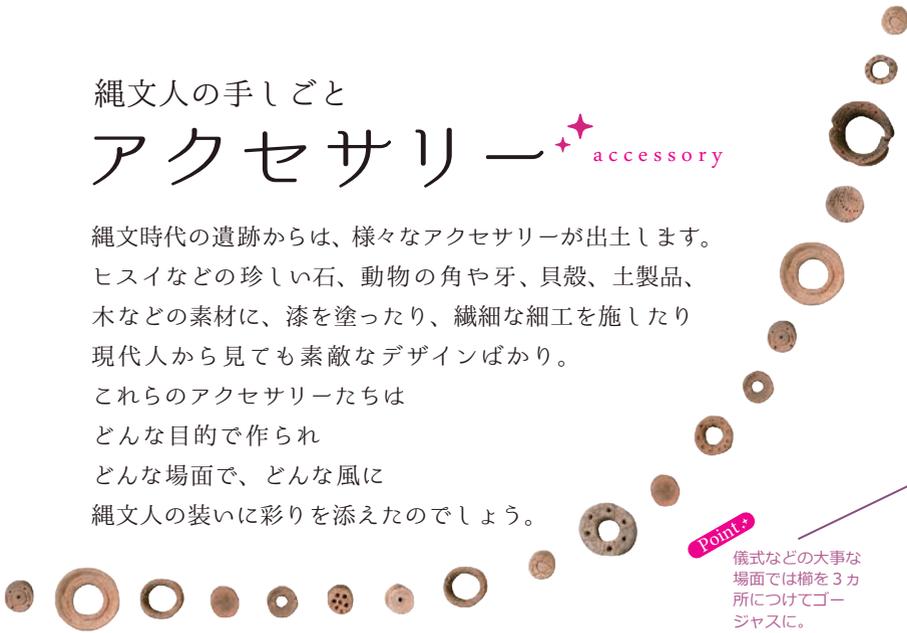


縄文人の手しごと

アクセサリー accessory

縄文時代の遺跡からは、様々なアクセサリーが出土します。ヒスイなどの珍しい石、動物の角や牙、貝殻、土製品、木などの素材に、漆を塗ったり、繊細な細工を施したり現代人から見ても素敵なデザインばかり。これらのアクセサリーたちはどんな目的で作られどんな場面で、どんな風に縄文人の装いに彩りを添えたのでしょうか。



漆塗りで透かしが入った櫛・耳飾り



恵庭市カリンバ遺跡などからは透かしの飾りが入った赤い漆塗りの櫛や耳輪、腕輪などが出土しています。
※恵庭市郷土資料館
(写真提供：恵庭市教育委員会)

貴重なヒスイの勾玉がついた首飾り



(写真提供：北海道埋蔵文化財センター)

写真は、美々4遺跡ほか北海道内各地で出土したヒスイ。新潟県糸魚川市周辺が原産地であり、日本海をわたって北海道と交流があったことが伺えます。

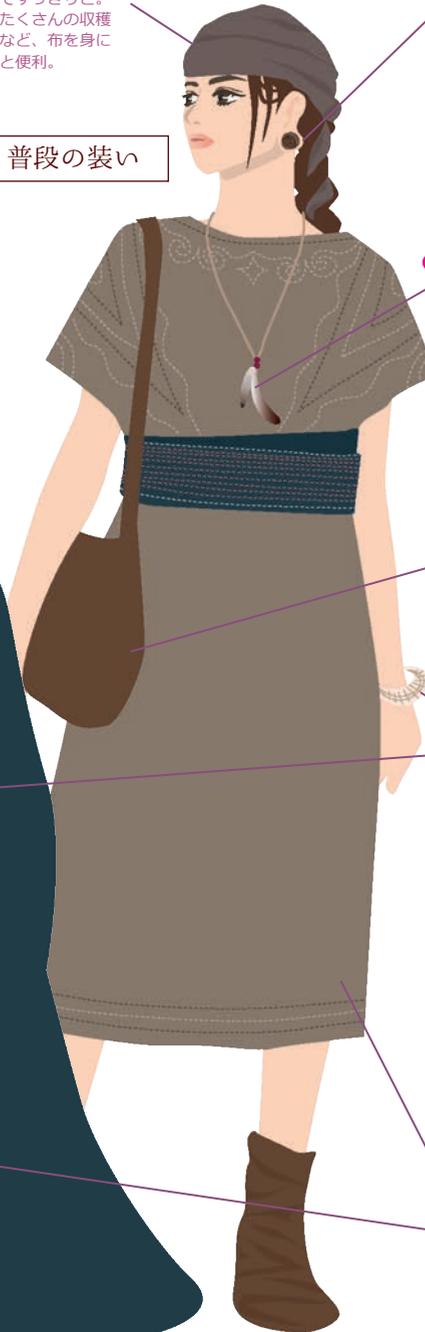
ハレの装い



Point・
儀式などの大事な場面では櫛を3カ所につけてゴージャスに。髪型は3つのブロックに分けて櫛が目立つように高い位置でまとめるのがポイント！

Point・
貝でつくった平玉のネックレスをあえてプレスレットに。石製のものよりも軽く、手首が冷えないのが人気の秘密。

普段の装い



Point・
長い髪を布でまとめてすっきりと。けがをしたときや、たくさんの収穫物を包んで運ぶときなど、布を身につけているとなにかと便利。

Point・
少しずつ大きなものに付け替えて、あこがれの大ぶりな耳飾りスタイルを目指そう。急に大きなものをつけると耳たぶがちぎれるから注意して！

Point・
狩りでしとめた鳥の羽をシンプルなペンダントに。かわいくて軽いのので普段着のワンピースに。

Point・
森で集めた木の実や野草を入れるのにぴったり！両手があくので採取作業がはかどる機能的なデザイン。

耳飾り

縄文早期～晩期の約5000年にわたり使われていました。前半は石製、後半は土製で、ともに耳たぶに孔をあけるピアス。成長に合わせて大きさを変えたとも推測されています。



※北海道埋蔵文化財センター

縄文ポシェット

※P2参照

貝の平玉ネックレス・貝輪



ピノスガイを荒く割って形を整え、メノウ製の錐(きり)でひとつひとつ穴をあけて仕上げていきます。
※礼文町郷土資料館
写真提供：礼文町教育委員会 撮影：佐藤雅彦

布の材料

カラムシ、アカソ、オヒヨウなど樹の皮や草の繊維からアンギン編みで布を作っていきます。

※上記イラストは、縄文時代の遺跡から出土した遺物をもとに、普段の装い、ハレの装いとしてイメージしたものです。服の形状や色、模様、アクセサリーのつけ方等はあくまで想像のものであり、実際こうだったかどうかはわかりません。みなさんもいろいろ想像してみてくださいね。